

令和4年度 小学校高学年における教科担任制推進事業の成果等について

令和5年3月13日
小中学校課

中央教育審議会答申において、令和4年度を目途に義務教育9年間を見通した小学校高学年における教科担任制の本格的導入が必要とされたことを踏まえ、質の高い学習の保障による児童の学習内容の理解度・定着度の向上、及び学校の働き方改革を進めること等を目的として、「令和4年度小学校高学年における教科担任制推進事業」を実施した。

「学習指導の充実」「生徒指導の充実等」「働き方改革の推進」「中学校への円滑な接続」を視点を、学級担任間の交換授業と専科教員の教科授業を組み合わせた取組を実施した本事業の成果等を以下のようにまとめた。

1 令和4年度小学校高学年における教科担任制推進事業について

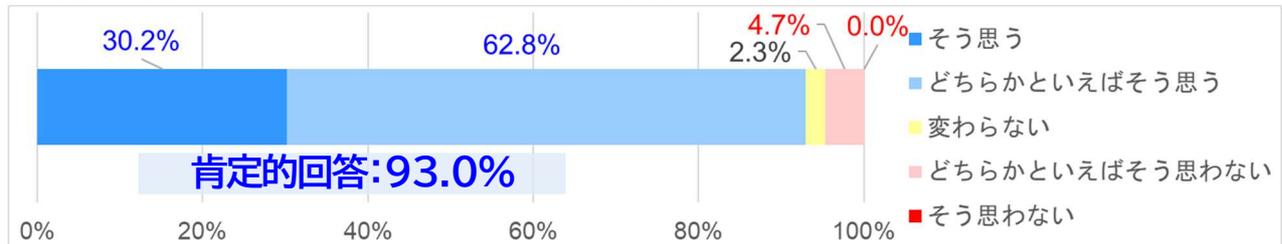
(1) 令和4年度の推進協力校について

鳥取市立城北小学校 鳥取市立浜坂小学校 倉吉市立社小学校
米子市立加茂小学校 境港市立中浜小学校

(2) 推進協力校の実施状況アンケート結果

2回目アンケート 令和4年12月～令和5年1月実施 回答数 43

○教科担任制を導入することによって、児童の授業の理解度の向上につながると感じますか。



受け持つ教科が限られることで、教材研究に割く時間の増加により内容が深められ、複数回同じ単元の授業をすることが授業改善につながり、児童の理解が向上すると考えられます。

○教科担任制を導入することによって、授業が好きな児童が増加すると思いますか。



授業が精選され、児童に分かりやすい授業となることで楽しい学習となると考えられますが、専門性が色濃くなることでよりプレッシャーや苦手意識を感じることもあるのではないかと意見もありました。

○教科担任制を導入することによって、教員の時間外勤務時間の縮減につながると感じますか。



担当する教科の種類や時間数が減少することで、教材研究、準備の時間が減り、時間外勤務の縮減につながることが期待できます。また、人員を増やすことが教科担任制の大前提であるとの意見もありました。

○上記の質問の内容を総合的に考えて、小学校高学年における教科担任制は高学年にとって効果的なシステムであると思いますか。(肯定的、否定的のどちらかで回答)



およそ9割が肯定的な回答をしています。実際に教科担任制に取組んだ学校の先生方の回答ですので、今後の導入を検討する際の参考としてください。

2 小学校高学年における教科担任制推進協力校の事例（令和4年度）

例1（5年3学級、6年3学級）

	学年組	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	学活	関わる教員数	担任担当教科数	空き時間数
A先生	5年1組担任	A		H	A					A		A	A	A	7	7	7
B先生	5年2組担任	B	G	C	B	I	J	A	C	H	B	B	J	B	7	5	5
C先生	5年3組担任	C			C					C		C	C	C	6	8	4
D先生	6年1組担任	D		F	E	D	F	D	F	D		D	D	D	4	7	5
E先生	6年2組担任	E	D	F	E	D	F	J	F	E	B	E	E	E	5	6	3
F先生	6年3組担任	H						F		H		F	F	F	5	7	5
G～J先生：専科・級外等																	



【5年生】担任間の交換授業 図工、家庭科、外国語

専科や級外等による授業 書写、理科、音楽

○学年で受け持ち教科を決めることにより、担任担当の教科数の減少を図っている。

○A先生は初任者研修をしており、空き時間に他の教員の授業を参観。

【6年生】担任間の交換授業 書写、社会、算数、理科、音楽、家庭科、外国語(5年担任)

○E先生は、学年の算数を週15時間受け持つことで、担当教科の減少を図っている。

○教卓に児童名簿を置いておき、欠席や気になることを次の教科担任へ記入しながら情報を引継いだ学級もあった。

○B先生は、5、6年の外国語を受け持つことで、学年を越えた縦持ちができています。

○全学年を通して、道徳の一部教材で学年内交換を行っている（教材研究の軽減）

例2（5年4学級、6年3学級）

	学年組	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	学活	関わる教員数	担任担当教科数	空き時間数	
A先生	5年1組担任	A	L	C	B	A		A	L	A		A	A	A	6	7	7	
B先生	5年2組担任			D	B	B		B	J	B		B	B	B	7	7	5	
C先生	5年3組担任			D	C	C	A	I	C	L	C		C	C	C	6	7	5.2
D先生	5年4組担任			D	C	B		D	J	D		D	D	D	7	7	7.2	
E先生	6年1組担任	E	E	F	E		E	K	E		E	E	E	5	8	6.8		
F先生	6年2組担任	F	G	F	F	J	E	F	I	F	H	F	F	F	6	8	6	
G先生	6年3組担任	G	G	G	G			G	I	G		G	G	G	5	8	7	
H～L先生：専科・級外等																		



【5年生】4学級を2グループに分け、担任グループ間の交換授業

国・算…1・2組と3・4組 社・理…1・3組と2・4組

専科や級外による授業 書写、音楽、家庭、外国語

国語・算数の週当たり時間数の多い教科も交換する。

【6年生】担任間の交換授業 学年すべてではなく、部分的に行っている。（書写、社会）

○高学年は2学級ずつで合同体育に取り組んでいる。（TTの体制をとっている）

○H先生は、5、6年の外国語を受け持つことで、学年を越えた縦持ちができています。

令和4年12月実施した第2回小学校高学年における教科担任制推進協力校連絡協議会において、大分県教育委員会の指導主事から大分県での取組を紹介していただきました。

大分県で作成されている、教科担任制の好事例や課題への取組などを掲載した「小学校教科担任制の導入手引き」の中の事例を紹介します。

例3（5年2学級、6年2学級） ※大分県の事例

	学年組	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	関わる教員数	担任担当教科数	空き時間数
A先生	5年1組担任	A	B	B	専科	A	A	A	専科	A	4	5	5
B先生	5年2組担任					B				B		B	
C先生	6年1組担任	D	C	専科	C	C	D	D	専科	C	4	4	6
D先生	6年2組担任				D							D	

※担任担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。

○各担任などの**専門性が活かせる**ように学年担任・担当教科を決定する。

○習熟の状況に課題が見られる場合は、**少人数指導**が実施できるようにする。

○日課表は、**教務と教科担任制推進教員が連携**して作成する。

○週案は学年部で立て、最終確認を教務と教科担任制推進教員で行う。

ポイント 学年内の**多くの教科**で教科担任制を実施している例です。

例4（5年1学級、6年1学級） ※大分県の事例

	学年組	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	関わる教員数	担任担当教科数	空き時間数
A先生	5年1組担任	B	A	A	推進	推進	A	推進	A	高学年以外の担任	4	4	6
B先生	6年1組担任		B	A			B					B	

推進：教科担任制推進教員

※担任担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。B先生は6年体育にT2参加あり。

○得意な教科を担当が選択するように留意。

○時間数の**平均化**に留意。

○1時間目は担任の授業を行う。

○準備が必要な教科は**2時間続き**にした。

ポイント 5, 6年生で**学年を越えて、かつ時間数の多い国語と算数を交換**しています。

大分県教育委員会（令和4年3月）作成

小学校教員の専門性を高めた質の高い授業の促進～小学校教科担任制の導入～手引き より

文部科学省が、「小学校高学年における教科担任制に関する事例集～小学校教育の活性化に繋げるために～（令和5年3月）」を作成しています。

本事例集は、今後、義務教育9年間を見通しつつ、教科担任制の更なる導入を円滑に進めるとともに、学校現場において効果的に運用するために、教科担任制を小学校教育の活性化に繋げている好事例について、その特徴や運営上の工夫、効果を「見える化」したものです。

文部科学省ホームページの下記URLまたはQRコードからアクセスし、教科担任制を検討する際の参考としてください。

「小学校高学年における教科担任制に関する事例集～小学校教育の活性化に繋げるために～」

https://www.mext.go.jp/a_menu/other/mext_00005.html



3 成果と課題

【学習指導の充実】

- 一人の教員が同じ内容の授業を複数回行うことによって、授業実践が妥当だったかどうかを検証する機会となり、教員の指導力の向上や深い学びにつながった。
- 個々の教員の得意分野（専門性）を生かして交換授業、出入り授業の組合せを工夫したことで、授業の質が高まった。
- 教科の進度が揃えやすく、学校全体の理解度や児童の実態を把握しやすい。
- △学力保障をする手立てとして、少人数で児童を指導するほうが、効果的ではないか。
- △教材研究をするにあたって相談できる教員が減り、1人で悩みを抱え込む場合も可能性としてある。
- △中学校と異なり、授業間の休憩は5分。移動や次の授業の準備が大変。
- △校内研究体制が取りにくくなり、ある教科で研究しても実際に授業をする教員が減る。

【生徒指導の充実等】

- 生徒指導が困難な学級ほど、多くの教員が出入りすることで指導・支援できることがわかった。
- △中学校の兼務教員が月に一回小学校の様子を見にくることで精一杯の状況である。

【働き方改革の推進】

- 全教科の準備の必要がなくなり、担当する教科の準備に集中できる。
- △担当する教科数が減ると教材研究する教科の数も減るので業務改善につながるはずだが、組織内の様々な事情によりフルタイムの教員への負担が集中している。

【中学校への円滑な接続】

- 高学年で一部教科担任制を経験することで、児童がシステムに慣れた。
- △生徒指導に関しては意見を交換するような場がない。

4 今後の小学校高学年における教科担任制の取組に向けて

各学校の状況に応じて高学年教科担任制の導入の検討をお願いします。

専科教員の教科授業に加え、加配がなくても取り組むことのできる、学級担任間の交換授業も御検討ください。

検討案① 担任間による交換授業によって、教員一人あたりの指導する教科を減らす

- 【メリット】 1教科あたりの教材研究の時間が増加
 - 1学年複数学級であれば、同じ内容の授業が複数回できるため、教科の指導力向上がねらえる
 - 1学年1学級であれば、5、6年生をまとまりとして教科の系統性を踏まえた指導ができる
- 【デメリット】 受け持たない教科が出てくるため、その教科の教材研究などができなくなる
- 教える児童数が増えるため、児童理解に時間がかかってしまう可能性がある

若手の先生など、教科数が減ることは強みとなりますが、いざ自分が教えるとなったときには不安があると思います。空き時間に受け持っていない教科の授業を参観したり、毎年受け持つ教科を変えて、複数年ですべての教科を指導できるようにしたりするなどの工夫が考えられます。



検討案② 試しに1単元だけで交換授業を行ってみるなど、まずはやってみて「手ごたえ」を実感する

- 【メリット】 1単元のみなので、取組が難しい場合は元に戻せる
- 【デメリット】 1単元のみでは、子どもとのやり取りがうまくいかない可能性がある

日頃から、児童の様子や情報を共有することによって、他学級の授業を行う際に、児童の特性や配慮事項等に合わせた指導ができます。児童とのつながりを持つ先生が増えることは、児童理解や指導においてプラスに働くことが考えられます。



検討案③ 「学級担任が全ての教科を教える」から「組織(学年・チーム)で教える」という考え方に転換する

- 【メリット】 「担任が自分の学級の責任を持つ」体制から、「組織で子どもを育てる」意識の転換ができる
- 【デメリット】 週案の作成、出張や休んだ場合の体制づくりなどが難しい

自分の学級だけでなく、他の学級で指導するためには、児童の様子や家庭学習の内容など、こまめな情報共有が欠かせません。また、学習規律や黒板、ノートの使い方等、学校・学年体制でそろえることで、児童の戸惑いも少なく、若手の先生には授業のコツを知る機会となっていきます。さらには、教科担任制について保護者への丁寧な説明も必要となります。

